



東北大学附属図書館報 木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>

ー木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）ー

目 次

○附属図書館イメージキャラクター名称決まる はぎのすけ紹介 1	○シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その2 北青葉山分館へ行こう 11
○シリーズ 貴重図書 25 までまていか＝學バレレベキモノ ーバースのアデラードと『幾何学原論』 2	○附属図書館オープンキャンパス 2009 を開催 17
○平成 21 年度大学図書館職員長期研修を受講して ー図書館職員はマネージャー！？ 10	○本館「開館時間全国一」で入館者も増加 18
	○会議 19
	○人事異動・編集後記 20



シリーズ 貴重図書 25

まてまていか＝學バレルベキモノ

——バースのアデラードと『幾何学原論』——

学術資源研究公開センター 助教 小 川 知 幸

本を贈るということ

K：先生、頼まれてた蔵書の整理、あらかた終わりましたよ。

T：おおっ、ちょうどお茶を淹れていたところじゃ。煎餅でも食べていきたまえ。

K：それって私が買っておいたものじゃないですか！ まあ、いいです。それにしても先生の本ってけっこう古いものが多いですね。こげ茶色の革の本って初めて見ましたよ。

T：古刊本じゃな。少しだけじゃが 17 世紀の本もあるから読むのに苦労したろ。ラテン語じゃからな。

K：なんとか。著者名くらいは大丈夫ですよ。しかし本の形がまちまちですね。まるで持ち主が好き勝手に作ったみたい。

T：その通り。装丁は、本を買った者が自分で好きなようにやったのじゃ。

K：え、そうなんですか？（パリッ）

T：もちろん専門業者に頼むこともあるが、19 世紀に入るまで、出版社が本を装丁して売ることにはなかった。だから本は折り丁というページを畳んで重ねた束が、本屋の棚に寝せてあっただけなのじゃ。これを買って求めて好きな装丁に仕上げる。ただし、時代によってモードがあるから一定の決まり事はある。たとえば、カーフという仔牛の革は学術書に多い。革で言えば、ほかにも豚革、モロッコ革、ヴェラムなどというのがあって、モロッコ革というのは山羊の皮から作る、シボ目の美しい最高級の装丁じゃ。

K：装丁っていうのは、化粧を含めた製本のことですね？ 今では趣味でやるくらいなんですよ。

T：んなこたない。今でも欧米の町では製本屋（Binder）の看板をよく見かけるがの。

K：そういえば、昔観た「シックス・センス」という映画で、未亡人に言い寄る男が古い革装の本をプレゼントするシーンがあったのを思い出しました。それを、自分は死んでいないと思っている主人公が見ているという。

T：昔は国王が妃に、革の上にさらに宝石をちりばめた本を贈るなどということがあったくらいじゃよ。

K：古いのに綺麗な本でしたね。

T：おそらく古い本を見つけて、中身に合うように装丁し直したのかもしれない。たぶんその男には相当な教養があるが、カネがない。けれども、王侯貴族が貴婦人に宝石を贈るような意味を込めて、未亡人に本を贈ったんじゃないだろうて。

K：ロマンチックな話ですね。でも、先生んこの本はそんなにキレイじゃないですね。

T：（……ズズッ）

ローマ数字の意味

K：ところで、これ読めなかったんですけど。

「C I O I O C L V I I I」

T：どれ、こうしたら読めるかの。

「M D C L V I I I」

K：あつ、年代ですか！ ということは、1658 年ですね。「C I O」ってのが「M」だったとは気づきませんでした。M はミレニアム（Millennium）だから 1000 で、C はセンチュリー（Century）で 100 って覚えてたんですけど、ひっくり返ってたんで。

T：たしかにそう覚えておけばいいんじゃが、も

ともMというのはミレニアムに由来しているわけじゃないんじや。数を表すたんなる記号であって、自然言語とは別ものだったんじやよ。

K：説明してください。

T：ローマの数字はI，V，X，L，C，D，Mの七つの記号からできておるが、もとは石の上に刻みつけたり、木の棒（talea, 英語で tally）に刻みつけた、たんじゅんな「しるし」じゃった。ラテン語で talare は「切る、刻む」の意味じゃが、これが後に「しるし木」とか「割り符」になるんじやな。それで、Iに横線を入れたのがX（=10）で、Xの上半分がV（=5）になった。Lの起源はギリシア文字の「Π」で、Cは「Θ」だったのではないと言われておる。ローマ人はこれらのギリシア文字を使わなかったので、数字に流用したんだろう、ということじゃな。だから、100 がラテン語のセントウム（centum）に当たるといってもそれはたんなる偶然で、Cはそもそもローマ字ですらなかった。

K：DとMはどうなんですか？

T：DはCを五つ集めた意味の「I C」から来ておる。これを両側から合体させた記号がMであって、ラテン語の 1000 を示すミレ（mille）とは、もともと関係がない。

K：へえ～、とすると、こうですか。ローマの数字は直線から作ったIとかXとか、その半分のVしかなくて、その後困って外国語の記号を流用してLとかCを作ったと。でもって、それでも足らなくなると記号を固めてDとかMを作った、ということですか？

T：おおよそ、そんなところじゃろう。さらに驚くことには、こういう数字の使い方が古代、中世をつうじてルネサンスまで生き残っておったということじゃな。17世紀の古刊本に出てくるということは、そういうことじゃろうて。

K：ひさしぶりに先生のこと、感心しましたよ。

T：そこか！

K：ローマ数字をかならずしもラテン語の頭文字だと思っはいけないと。たぶん、ローマ数字って、どこかに「刻みつけられる」っていうことが重要だったんでしょね。でも、そうすると古代ローマの人たちって、この数字を使って、どんなふうに計算してたんでしょね。

T：じつは、計算しなかったのじゃ。

K：ええ～っ！？

古代中世の計算法 — イングランドの財務府

T：では、まずこれを見るがよかろう。7世紀のイングランドの修道士にベーダ・ヴェネラビリスという人物がおったんじやが、これは彼が残した、当時の指による数のかぞえ方と言われておる。（図1）

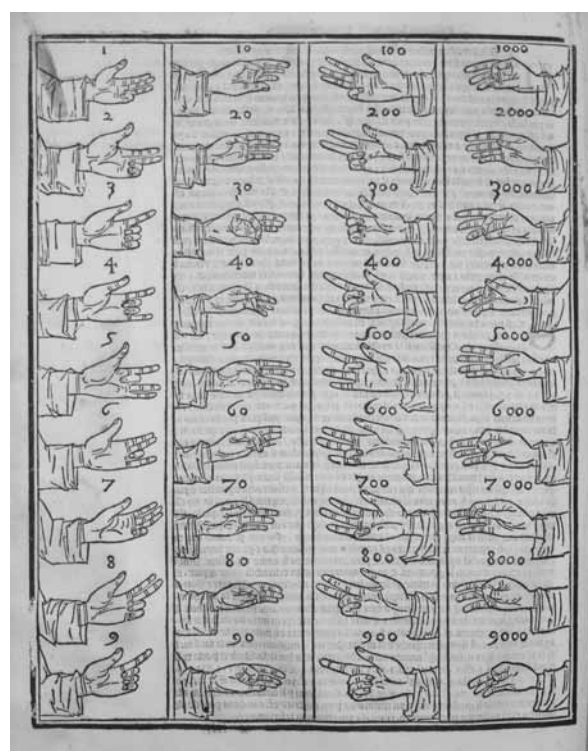


図1：ベーダ「指による数のかぞえ方」

K：指の曲げ方と手のひらの向きで数を表してるんですね。「競り」みたい。おもしろいですね。

T：相手にすばやく数を知らせるには、これ以上

の方法はないということじゃな。かりに読み書きができなくても、数を扱うことができた。同時に、ベーダのかぞえ方からわかるのは、10の位は左手を伏せて、100の位は右手で、1000の位は右手を伏せて、という具合に、「^{くらい}位取り」をすることで数をよりわかりやすく伝えていたことじゃ。

K：あ、ホントだ。

T：この位取りによって、指でかぞえるほかにも、数を扱う新しい可能性がひらけた。それぞれの位を示すマス目を作って、そこに計算玉というおはじきのような石を置いて計算する方法じゃ。ちなみに、「計算する」という英語はなんと言うかの。

K：カルキュレート（calculate）ですよ。

T：その通り。この言葉はラテン語で小石を意味するカルクリ（calculi）に由来しておる。ドイツ語ではカルキ（Kalk）、つまり石灰にあたる言葉じゃ。ローマ人は算術家のことをカルクラートル（calculator）と呼んでおった。すなわち、小石（計算玉）を繰る者というほどの意味じゃな。彼らはIの位、Xの位、Cの位、Mの位というマス目を引いて、そこに計算玉を置いたり引いたりしながら、加減乗除をおこなっていたらしい。（図2）

		4	9	6
X				
M	M	C	X	I
			○	○
		○	○	○
		○	○	
		○	○	

図2：計算玉によるローマの算術
（例として496を示す）

K：なるほど、おもしろいですね。さしずめ珠算法ですか。そろばんじゃないけど。

T：この位取り方式は10世紀の終わりにローマ教皇になったゲルベルトゥスという学者も紹介しておるし、12世紀にはイングランドの財務府というところで採用されて、なんと近代に入るまで続いたんじゃ。

K：「財務府」ですか。なんか習ったような気が。イギリスの中央財務官庁で、大蔵省のもとになったやつ？

T：まあ、そうじゃな。この財務府は英語でエクスチェッカー（Exchequer）と言う。毎年、ひとつの大きなテーブルの前に国王とその側近たちと地方長官が集まって、会計検査をおこなった。そのテーブルの上には羊毛でできた黒い布が敷いてあって、マス目状に格子縞が引かれていた。そこに置かれたのが計算玉じゃ。

K：わかった！ その格子縞がチェッカーっていうんでしょ。

T：そういうことじゃが、「チェス盤」といったほうが近いな。もともとエクスチェッカーはラテン語のスカッカリウム（scaccarium）の訳で、これはペルシア語で王を意味するシャア（šah）から来ておる。どういことかと言うと、チェスは王のゲーム、キングス・ゲームだったからじゃ。略してキングじゃな。

K：むりに略さなくても。

T：ちなみに、当時の貨幣は10進法ではなかったから、計算玉を置く位をたがい違いに上げ下げして、悩ましいほど計算が複雑じゃった。具体的に言うと、1ポンドが20シリング、1シリングが12ペンス、1ペニーが4ファージングなんで、4進法、12進法、20進法が混在していたんじゃ。

K：なんでそんなことになっちゃったんです？

T：それはおそらく、中世のイングランド人が、貨幣の単位をローマ人の重さの呼び名から借用したからかもしれんのう。ポンド（£）の元のラテン語はリブラ（libra）じゃが、これは「天秤」の意味なんじゃ。

K：知ってます。星座のてんびん座はリブラですもんね。

T：1 ペニー貨を 240 枚、天秤に載せて 1 ポンド。それが正しい重さかどうかもまた問題じゃった。混ぜものをして誤魔化しているかもしれんからな。国王は、地方長官があといくら納めるべきかを示して、「しるし木」に刻んだ。記録のためじゃ。これがさっき言ったタリー (tally) で、税金 (tax) の語源になった。

K：チェス盤の上で玉をはじいて、木の棒に刻んでいたわけですか。

T：それもギザギザの歯形のような。

K：しかし、それにしても、国王一同がしかめ面してチェス盤をにらんでたかと思うと、なんだか微笑ましいですね。

バースのアデラードと『幾何学原論』

K：だんだん、ローマ数字がなぜ計算に使われなかったかっていうのが、わかってきました。じっさいの計算には、指で示したり、位取りして玉を動かすほうが、はるかに便利ですもんね。でも、今の算用数字も、アラビア数字って言うくらいですから、どこかでアラビアから入ってきたんじゃないんですか？

T：そうじゃ。ヨーロッパでは 12 世紀に社会的な大変動が起きた。世界史で「十字軍」とか、「レコンキスタ」とか、習ったことがあるじゃろう。

K：あるような気がしますね。

T：端的に言ってしまえば、ヨーロッパ人が、周辺に広がったイスラーム教徒をそとに押し返していく運動じゃ。スペインや南イタリア、シチリアなどの南欧では、追い返されたムスリムが逃げる途中、町に大量の文献を捨てていった。そのなかには彼らがギリシア語からアラビア語に翻訳した古典古代の自然哲学書もたくさんあった。

K：そしてそれをヨーロッパ人がラテン語に翻訳すると？

T：その通り。そうしてローマ人が受け継がなかったギリシアの古典が初めてヨーロッパ人の目に触れることになったんじゃ。数学で言えば、ユークリッド (エウクレイデス) の『幾何学原論』 (*Elementa Geometriae*)。これをいち早く翻訳したのはイングランド人で、バースのアデラード (Adelard of Bath) という人物じゃ。彼は、最初フランスのトゥールで当時最高の学問を修めたんじゃが、それに飽きたらず新たな文献を探してイタリアのサレルノや、スペインのトレド、シリア、シチリアを旅してまわった。そして数学のほかにも天文学や気象学など、めばしい自然科学をほとんどカバーしたので、今では「最初の科学者」などと呼ばれておるんじゃ。これを見よ！ (図 3)



図 3：エウクレイデス『幾何学原論』初版

K：うわっ、投げないでくださいよ。(※じっさいには投げていません)

T：それは附属図書館にある『幾何学原論』じゃ。

1482 年に刊行された初版じゃよ。この本は基本的に 12 世紀のアデラードによる翻訳がもとになっておる。それに 13 世紀末にイタリア人のヨハネス・カンパヌス (Johannes Campanus) という数学者が註釈をつけたものが、今に伝わっておる。

K：なぜそんなのがうちにあるんです？

T：『貴重図書目録洋書篇』によれば、大正 8 年に数学教室で購入して平成 10 年に附属図書館に移管されたようじゃな。当時の価格で 625 円。高価な洋書でも 2〜3 円の時代じゃからきわ立って高額な買いものだったといえるじゃろうて。

K：すると、時価数百万円！？ 目ん玉が飛び出ますね。大事に扱わないと……。それで、先生、そのアデラードにはどんな意味があるんですか。

T：『幾何学原論』には、ギリシア数学からアラビア数学をへて、インド数学にまでいたる当時の叡智のすべてが流れ込んでいたということじゃよ。新しい数字、ゼロの概念、ローマ人の算術をこえるギリシアの理論数学など、これまでの算術の伝統をくつがえしてしまう可能性を秘めていたんじゃ。たとえば数字ひとつとってみても、現在アラビアで使われている数字は、じつはわれわれの知っているアラビア数字ではない。このころヨーロッパに導入されて、独自に変化したんじゃ。下の図を見たまえ。(図 4)

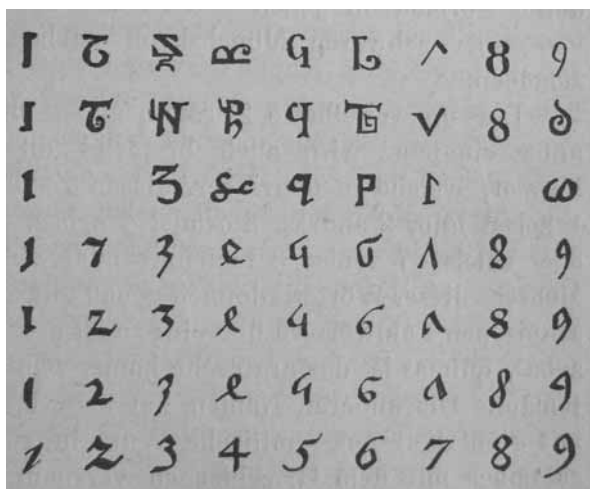


図 4：ヨーロッパにおけるアラビア数字の変遷

K：ほんとだ、いちばん下の数字はわかりますけど、4 とか 5 とか、7 とかも微妙に違ってますね。

T：上から 3 段目までが 12 世紀ころのいわゆるアラビア数字で、4 段目からは 13 世紀以降に見られる数字じゃ。いっぽう、ゼロの概念は、位取りと計算玉に頼っていた数字の記述法をすっかり変えてしまった。すなわち、その位は「カラ」だと言うしかなかったものを、「無い」という積極的な表示することによって、計算法をマス目と小石から解放したわけじゃ。

K：つまり、アデラードはその先鞭を付けた、とおっしゃりたいわけですね。

まてまていか＝学ばれるべきもの

T：さよう。アデラードは、『原論』の序文で、数学を「まず学ばれるべきもの」と言っておる。幾何学 (Geometria) のおおもとの意味は土地 (geo) の測量術 (metros) であり、その技能者を技能者たらしめるのは数学 (mathematica) である。そして数学は、数論、音楽、幾何学、天文学の基礎であり、神学、自然学を含む理論学のひとつである、というんじゃな。

K：ちょ、ちょっと待ってください。むずかしいですよ。幾何学は土地測量術から発達したもので、測量術のためには数学の習得が必須だったという意味ですか？

T：というよりも、数学を意味するマテマティカという言葉そのものが、「まず学んでおかななくてはならないこと」という意味だったんじゃよ。

K：はあ、なるほど。で、後半は？

T：数字を扱うにも、幾何学や天文学や、音楽をやるにも、数学を知らねばならない、で、数学は理論を扱う学問で、その点で神学や自然学と同様だということじゃ。

K：数学を神学と同列に置いていると。

T：そこがアデラードのおもしろいところじゃ。彼はイングランドに戻った後、幼いノルマンディ

公の家庭教師になった。このノルマンディ公が、後のイングランド国王ヘンリ二世で、さっき言った財務府が歴史に姿を現してくるのが、まさにこの時代なんじゃ。アデラードのものの考え方は、おそらくこの国王にも影響を及ぼしていたじゃろう。ところが、アデラードはその後、天文学にのめり込んでしまう。彼は宇宙の外側に、アプランノス (aplanos) というものが存在して、それが神かどうかは断言できないが、たしかに生きものだ、と述べておる。

K：中世の宇宙観ですね。

T：そうじゃな。そこがアデラードの限界だったともいえるじゃろう。しかし星々の動きを含めた自然の運動を、できるかぎり合理的に「計算」しようとしていた。そのとき数学は最大の武器になったんじゃ。神が創ったこの宇宙のシステムを、たんなる信仰ではなしに、理性にしたがって考察しようとした。その精神は、中世を突き抜けて、まさにサイエンティストそのものだった。だから彼は、「最初の科学者」と言われておるんじゃよ。

K：つまり、近代に向けてアデラードが遺したタイムカプセル、それが『幾何学原論』の翻訳だったというわけですね。

数学の発展

K：そのあと、数学はどうなってしまうんですか。

T：大学のカリキュラムに取り込まれたんじゃ。自由七科、すなわち、文法、修辞、論理学、算術、幾何、天文学、音楽という基礎課程に組み込まれた。それで、この課程の上には医学部、法学部、神学部があった。この上位3学部を修了した者だけが専門家を名乗ることができたのじゃ。じゃが、彼らも基礎課程では確実に、広い意味での数学を学んでおった。だから、医学にせよ神学にせよ、だんだんと、いわゆる数学的思考をもって望まれるようになった。

K：まさしく、「まず学ばれるべきもの」になっ

たわけですね。

T：同じころに、アラビア数字をもちいて筆算をおこなう「アルゴリズム派」という一派が現れた。

K：アルゴリズムって、コンピュータとかの演算手順のことですか？

T：もちろん、この時代にコンピュータはないがの。まあ、アル＝フワーリズムーという、イスラームの数学者の計算法にしたがう者たちというほどの意味じゃが、この「アル＝フワーリズムー」が訛ってアルゴリズム (algorithmus) と呼ばれたんじゃ。で、彼らは羊皮紙や紙の上にインクでアラビア数字を書き、途中の計算をささっと線を引いて消しながら、驚くほどの速さで解を求めた。たとえばこんなふうじゃ。(図5)

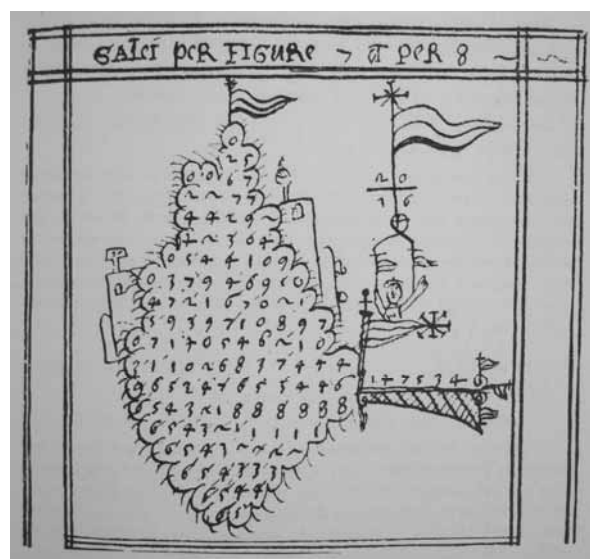


図5：アルゴリズム派による「ガレー算法」

K：……これは、どこのラクガキですか。

T：落書きじゃあない。計算の過程が残って、ガレー船 (多数のオールをもつ大型の帆船) の帆のようになるので、ガレー算法などともいわれた、アルゴリズム派の計算法じゃ。ちょっとかんたんにやって見せようかの。496掛ける23だとすると、真ん中に496を置いて、それぞれの位に23を合わせながら掛けては消して、位をズラ

し、を繰り返す。そして最後に消さずに残った数字、1 1 4 0 8 が解になる、というわけじゃ。

$$496 \times 23$$

$$\begin{array}{r} 4 \\ -3- \\ 20 \\ 1109- \\ 9278 \\ 8496 \\ 23 \\ -23- \\ 23- \end{array}$$

$$= 11408$$

K：これが中世の筆算ですか、おもしろいですね。あとでやってみよっと。それで、アルゴリズム派が出てきて、計算玉派は消えちゃうんですか。

T：そうではないんじゃ。財務府のところでも言ったように、計算玉は近代に入るまで存続する。たがいに優劣を競ったかもしれないが、どちらにもメリットがあって、併存していくことになるんじゃないよ。この木版画が示しているような。(図6)

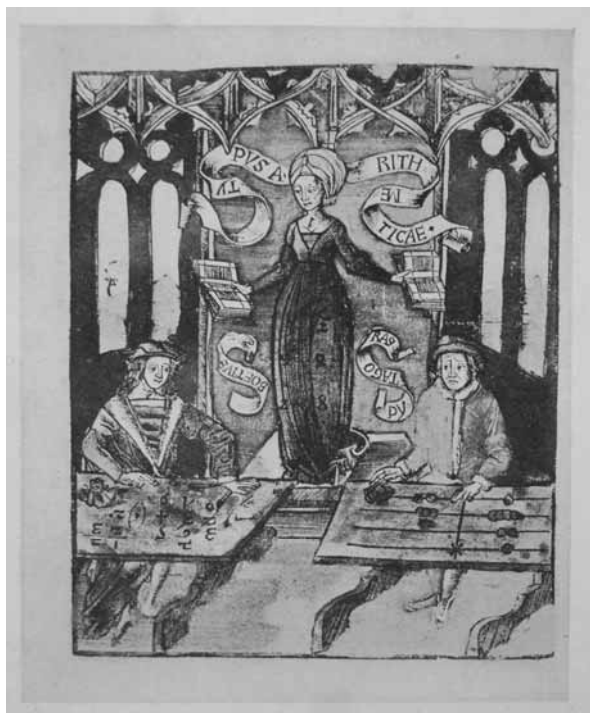


図6：アルゴリズム派と計算玉派の併存

おわりに

K：先生、お話が尽きないんですが、そろそろゼミが始まる時間ですよ。先生にローマ数字のことを聞いたら大変なことになっちゃいましたね。

T：おっ、もうそんな時間かの。やれやれ、まだ続きがあるんじゃが。ピサのレオナルドとかニコル・オレームとか、ルカ・パチョーリのことも話しておらん。

K：ぜひ次回にどーぞ。ここまでのお話をまとめますと、こういうことでしょうか。IとかXとかCとかのローマ数字は、刻みつけれられるものであって、計算に使われるものではなかった。しかも一部はギリシア文字からの借りものだった。で、じっさいに数をかぞえたりするには、指や手のひらでサインを作ったり、位取りした格子縞のなかに石、というか計算玉を置いてめまぐるしく動かす、そんなのが一般的だったと。ローマ数字も、その位取り程度には使われていたわけですね。イングランドの財務府でも……財務府が「チェス盤」（キング？）という意味だったのは驚きですが、まあ、同じ方式だったと。そこにパースのアデラードがユークリッドの『幾何学原論』をひっさげてやって来た。しかし、財務府の会計検査が大きく様変わりしたわけじゃないんですよね？

T：理論数学じゃったからのう。おそらく中世における「実用性」とは、別のところにあったんじゃないだろうな。

K：ところが、インド数学とかアラビア数学が12世紀の社会変動のなかでヨーロッパにどどっと入ってきたと。大学のカリキュラムに広い意味での数学が採り入れられて、神学者も数学的に考えるようになる。それから、アル＝ふわー？

T：アル＝フワーリズムミーじゃよ。

K：そう、その人が始めたアルゴリズム計算法がアラビア数字を使って、筆算の効率を飛躍的に高めた。アラビア数字も算用数字としてヨーロッパで独自の発展をして、今のようなかたちに落ち着

いたと、そんなところでしょうか。

T：感心感心。ついでに言えば、算用数字のかたちが定まったのは、活版印刷術によって数字の活字が固定されたからじゃろな。

K：いわば、コミュニケーションのマス化でしょうかね。ともかく今日は『原論』の初版を見せていただいて満足です。めったに見られないですね。

T：どれ、そろそろ行こうかの。

K：先生、つぎはお煎餅、自分で買っておいってくださいね。

(おがわ・ともゆき)

E. グラント (横山雅彦 訳) 『中世の自然学』みすず書房, 1982 年

M. S. マホーニィ (佐々木力 訳) 『歴史における数学』勁草書房, 1982 年

C. H. ハスキンス (別宮貞徳・朝倉文市 訳) 『十二世紀ルネサンス』みすず書房, 1989 年

伊東俊太郎 編『中世の数学』(数学の歴史2) 共立出版, 1987 年

C. Steel (八巻和彦 訳) 「学の対象としての自然」(小山宙丸編『ヨーロッパ中世の自然観』創文社, 1998 年所収)

小川知幸「15 世紀における手写本の伝統と革新——読書と読者のソシアビリテ」阪本浩・鶴島博和 他編『ソシアビリテの歴史的諸相』南窓社, 2008 年

主要参考文献

Adelard of Bath, *Conversations with his Nephew. "On the Same and the Different", "Questions on Natural Science" and "On Birds,"* ed. and trans. Charles Burnett with Italo Ronca, Pedro Mantas España, and Baudouin van den Abeele, Cambridge 1998 (Paperback 2006).

C. Burnett (ed.), *Adelard of Bath. An English Scientist and Arabist of the Early Twelfth Century*, London 1987.

L. Cochrane, *Adelard of Bath. The First English Scientist*, London 1994.

K. Menninger, *Zahlwort und Ziffer. Eine Kulturgeschichte der Zahl*, Göttingen 1958.

D. E. Smith, *Rara arithmetica. A catalogue of the arithmetics written before the year 1601*, Boston 1908.

Luca Paccioli, *Summa de arithmetica, geometria, proportioni et proportionalita*, [In Tusculano 1523].

Eucleides, [*Elementa geometriae. lat. Cum Campani amotationibus*, Venetijs 1482].

Th. L. Heath, *The Thirteen Books of Euclid's Elements*. Translated from the Text of Heiberg with Introduction and Commentary, 2nd ed. Revised with Additions, New York 1956.

平成 21 年度大学図書館職員長期研修を受講して

ー図書館職員はマネージャー！？ー

電気通信研究所総務課図書係 吉 植 庄 栄

I, 長期研修の内容

図書館職員とは、目録を作成したり、参考質問に応えたり、する「知的な」職人的職業であると 10 代の頃から思っていた。その気持ちで就職し、尚かつ今でもその気概は一応持っている。

話は前後するが、長年待ち望んでいた平成 21 年度大学図書館職員長期研修を受講することができた。(平成 21 年 7 月 6 日・7 月 17 日 於: 筑波大学春日キャンパス)

この研修の概要は下記の通りである。

「研修概要」

- A. 図書館マネジメント総論 8 科目 (9 コマ)
- B. 学術情報流通等各論 13 科目 (13 コマ)
- C. 演習・班別討議 (13 コマ)
- D. 見学: 筑波大学附属図書館 (1 コマ)

以上を分析すると現在の図書館職員像とは次のようなものであるらしい。

- 1. 職員はマネジメント力を持つべきだ。
- 2. 課題解決能力・議論力を持つべきだ。

つまり図書館職員とは、以前の目録を取る、レファレンス業務に精通する、といった職人的な職種から、マネジメントと人間関係を重視する職種に変化したことの現れと感じた。

極端な話、個人の職人芸的なものが重視されてきた従来と異なり、円滑な人間関係を土台とした合議や意識共有に基づいた図書館業務を行うようになったと言っても良いであろう。

どこの省庁も同じであるかもしれないが、本学の附属図書館も定員削減が進み係員の数が減っている。そのため図書館職員というものは、非常勤職員や外注のマネジメントをして現場を維持する業務が中心になってきているのであろう。

その際に課題解決能力・議論力、そして円滑な人間関係の構築と維持する能力は、今後より以上必要な能力となっていくはずだ。

つまり**図書館職員**はこれから益々**マネージャー**になる！ということなのであろう。

II, 所感・おわりに

弁護士、医者などを代表するように、専門的な能力を持つ「職人」的な職種は、その「特殊性」が社会的ステータスの高さを保証するものである。

図書館職員も従来はそのような点もあったのであろうが、現在は「特殊」性以上に、マネジメントが大事であるらしい。

そしてその「特殊」をマネジメントするのが現代の図書館職員だ。「特殊」はできる限り安価がよい。コストを抑えた「マネジメント」、「安価」な「特殊」技能それが理想である。

これが次のようなものを示す事を皆さんお気づきであろうか？

それは図書館職員の職人芸が、社会的ステータスを保証しなくなった、もしくは全く特技として見なされなくなったということである。

図書館職員がマネージャーになり、コストを考えた運用を行う。厳しい時代となった。

以上の事を参加した皆と夜な夜な議論し、充実した毎日を過ごすことができた。10 年後、皆はどのような解答を出すのか、そして自分はどうのような解答を出しているのだろうか？

最後に、長期研修中留守を預かって頂いた鈴木香代子さん、早坂幸子さん、そして電気通信研究所事務の皆様、さらにこの研修でお世話になった関係各位にこの場を借りてお礼申し上げます。(よしうえ・しょうえい)

シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その2

北青葉山分館へ行こう

北青葉山分館 管理係

1. 北青葉山分館の概要

分館等紹介の2回目は、理学部・薬学部キャンパス（北青葉山キャンパス）の北青葉山分館を紹介します。



北青葉山分館外観

北青葉山分館は、理学・薬学を主題領域とする分館として昭和57年（1982）4月に設置されました。当初は図書館としての建物が存在しなかったため、暫定的に工場棟の一部を事務室に使用し、化学棟の一部を閲覧室として約3万冊の図書・雑誌を集めたものの、それ以外は各学科の図書室に分散したままという状態だったそうです。

その後、昭和60年（1985）10月に現在の建物が完成し、各学科図書室の蔵書も多くが移され、今のような形になりました。

現在の建物は3階建てで、理学部・薬学部キャンパスのほぼ中央に位置しており、ベージュ色総タイル張りの清澄な外観をしています。

蔵書の特徴としては、理学・薬学関係の資料が中心であることは言うまでもありませんが、理学部が東北大学で最も古い学部であることから、他の図書館にはない珍しい資料も所蔵していることが挙げられます。また、地図や天気図といった特殊な形態の資料も多く所蔵しています。

北青葉山分館までの交通は仙台駅から「理学部・工学部経由動物公園循環」のバスに乗り、「理学部自然史標本館前」で下車してください。理学部・薬学部のゲートに入って右手側（薬学部方面）に向かうと、建物が見えてきます。



理学部・薬学部ゲート前



入って右を向くと見えてきます



正面玄関

2. 広々としたエントランスホール—1 階

正面玄関から中に入ると、広々としたエントランスホールがあります。エントランスホールは大学の関係者や卒業生から寄贈されたタペストリー・彫刻等で飾られており、パネル展示も行われています。ここでは新聞や一般雑誌を閲覧できるほか、館内唯一の飲食可能スペースになっており、お昼時にはお弁当を食べている学生さんの姿も見かけられます。



利用証（学生証等）を使って入館します



エントランスホール



彫刻「古代からのメッセージ」



アンモナイトも展示されています

エントランスホールからさらに中に入ると、左手にカウンター、正面にパソコンコーナーがあり、右手に進むと閲覧室になります。1 階の閲覧室に配架されているのは、図書と参考図書です。



カウンター 気軽にお越しください



パソコンコーナー 少し小さめです



1 階閲覧室



光庭 外には出られません



図書の書架 請求記号順に並んでいます

2 階の閲覧室には新着雑誌コーナーがあるほか、国内雑誌と、外国雑誌の頭文字「P」以降（3 階からの続き）等が配架されており、奥の電動集密書架には学科図書室の旧蔵書や、他大学の紀要類が配架されています。



新着雑誌コーナー



参考図書 理科年表がズラリ

3. 光庭を囲む閲覧室—2 階

2 階に入ってまず最初に目に付くのは、中央の中庭の部分です。ここは正式には光庭と言うそうで、取り付けられた窓から 1 階のパソコンコーナーに光が差し込むようになっていることから名付けられたのだと思われます。この光庭をぐるっと 1 周するように書架が設置されているのも、北青葉山分館の特徴です。



フカフカのイスでは利用者が寝ていることも



2階から1階エントランスを眺める



国内雑誌はローマ字表記のアルファベット順



2階閲覧室（西側）



電動集密書架 ボタンを押すと棚が動きます

なお、2階にはグループ学習を行うためのグループ閲覧室もありますが、現在は古い図書・雑誌の遡及入力作業の場所として使われているため、残念ながら利用していただくことができません。作業終了後に利用を再開する予定です。

4. 見晴らしの良さも魅力—3階

3階の閲覧室には頭文字「A」から「P」までの外国雑誌が配架されており、奥の電動集密書架には雑誌の学科図書室旧蔵書や、ロシア語の雑誌などが配架されています。



3階は外国雑誌が中心



電動集密書架 操作は2階と同じです

また、3階には特殊資料室があり、地図や天気図といった本とは違う形態の資料が収められています。特殊資料室は開館時間中は開放されているので、自由に利用することができます。



特殊資料室



「樺太地形図」なるものを発見

そして、3 階は窓からの眺めの良さでも知られています。西側には奥羽の山脈が見えますし、東側には遠く仙台市街が見えるだけでなく、晴れた日には太平洋まで眺望することができます。勉強に疲れたときには、窓の向こうを眺めてみるのも良いでしょう。



3 階も光庭部分が吹き抜けに



西の風景 今日あまり遠くまで見えません



東の風景 うっすらと市街も見えます



南の風景 すぐそばまで木が伸びています

5. 周辺環境

北青葉山分館はその名の通り山の上にある図書館なので、周辺にはとても緑が溢れているのが特徴です。

川内キャンパスからの近道である川内山屋敷からの山道では、様々な植物を見ることができますし、運が良ければカモシカやハクビシンといった動物にも会うことができます。分館の駐車場付近でも、春先にはよくタヌキが出没したりすることがあります。



駐車場 先日はリスを見かけました

また、北側には北青葉山憩い公園も完成しましたので、図書館で借りた本を公園の東屋で読む、なんていう楽しみ方もできるようになりました。外の風を感じながら本を読むと、素敵なアイデアが浮かびやすくなるかもしれませんよ。



北青葉山憩い公園 東屋やベンチがあります

6. おわりに

以上、北青葉山分館を簡単に紹介いたしました。窓ガラスから差し込む光の明るさと、長方形にコンパクトに収まった館内で、雰囲気の良さは東北大学の図書館でも一番だと思います。

新入生の方や他のキャンパスの方も、ぜひ一度訪れてみてください。

<住所と連絡先>

◇住所

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

◇連絡先

北青葉山分館カウンター TEL:022-795-6372

E-Mail:klib-s@library.tohoku.ac.jp

URL:<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/kita/>

附属図書館オープンキャンパス 2009 を開催

総務課 情報企画係

附属図書館では、7月30日（木）、31日（金）の2日間にわたり、「東北大学オープンキャンパス」の一環として、「附属図書館オープンキャンパス 2009」を開催いたしました。

内容は館内自由見学のほか、図書館職員による館内見学ツアー、図書館探検オリエンテーリング、附属図書館の蔵書を用いた「てんもん 2009」展等

を実施し、高校生をはじめ、ご父兄の方々や教師の皆様方にも大学図書館を実感していただく絶好の機会となりました。図書館の広大さ、蔵書の多さ、古典資料をはじめとする資料の多彩さに驚きや感嘆の声が寄せられ、2日間延べ4,670人の入場者により盛況のうちに終了することができました。



（エントランスホールを訪れる高校生）



（魯迅と藤野先生の銅像もライトアップ）



（入館ゲート側では七夕の笹竹がお出迎え）



（図書館探検オリエンテーリングで参考図書探し）



（世界天文年にあわせた展示「てんもん 2009」展）



（地下書庫にある100万冊以上の蔵書も見学）

本館「開館時間全国一」で入館者も増加

情報サービス課 閲覧第一係

本館では、平成 21 年 4 月から開館時間を平日は 8 時から 22 時、土・日・祝日は 10 時から 22 時と大幅に延長しました（平成 21 年度試行）。また、平成 21 年度の休館日を、年末年始等の年間 12 日のみとしています。これにより、国立大学の中央図書館で有人開館（ID カード等で入退館可能な無人開館時間帯を除く）の時間数が、全国一となりました。

本館の開館時間延長については、利用者からの要望が最も多く、平成 19 年度から段階的に取り組んできました。平成 21 年度は、閉館が早くなる休業期設定（夏休み等）をなくし、8 時に開館する平日と、10 時に開館する休日（土・日・祝日）にわけ、閉館は常に 22 時という覚えやすい設定にしました。一方で、利用が増える試験期は休日も 8 時に開館し利用者から好評を博しています。

これに伴い、快適な長時間滞在が可能となるよう、飲食可能なエリアを拡大しました。また、PC コーナーから利用できるカラープリンタ（有料）を設置し、学習・研究のための環境を充実させました。

入館者数は、9 月までの半年間で前年度 2 割増と順調な伸びを示しています。平日は 8 時 50 分の授業開始前に予習や発表資料のまとめなどまとまった時間を確保できるので、8 時台の入館者が増加しています。また、22 時まで蔵書や設備を利用できるので、夕方以降の入館者が目立って増加しています。

今後も環境や設備を含めたサービス改善に取り組んでいきますので、どうぞ本館をご活用ください。



（写真は開館時間をお知らせする懸垂幕）

会 議

21.7.23 平成21年度第4回附属図書館運営会議

■協議事項

- 1.附属図書館本館利用規則の一部改正について
- 2.3館構想及び事務一元化について
- 3.図書館情報処理システムの更新について

■報告事項

- 1.平成21年度第1回学術情報戦略会議について
- 2.平成21年度第1回調査研究室打合わせについて
- 3.平成22年度概算要求について
- 4.平成21年度総長裁量経費について
- 5.TOUR（東北大学機関リポジトリ）について
- 6.学生用図書について
- 7.遡及入力について
- 8.本館の開館時間延長について

21.9.8 平成21年度第5回附属図書館運営会議

■協議事項

- 1.3館構想及び事務一元化について
- 2.総長裁量経費による学生用図書の整備について
- 3.イメージキャラクターの名称について

■報告事項

- 1.次期副館長候補者について
- 2.附属図書館での盗難について
- 3.平成21年度第2回学術情報戦略会議について
- 4.平成21年度第2回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会について
- 5.委任経理金の受入について
- 6.平成21年度企画展について

21.7.29 平成21年度第3回附属図書館商議会

■協議事項

- 1.図書館情報処理システムの更新について
- 2.附属図書館本館利用規則の一部改正について

■報告事項

- 1.第56回国立大学図書館協会総会について
- 2.平成21年度第1回学術情報戦略会議について
- 3.平成21年度齋藤養之助家史料受入・整理検討委員会について
- 4.平成21年度第1回貴重図書等委員会について
- 5.平成21年度第1回川内地区図書委員会について
- 6.平成22年度概算要求について
- 7.平成21年度総長裁量経費について
- 8.TOUR（東北大学機関リポジトリ）について
- 9.オープンキャンパスについて
- 10.その他
 - ・本館の開館時間延長について
 - ・平成20年度文献複写収益について

21.9.10 平成21年度第4回附属図書館商議会

■協議事項

- 1.3館構想及び事務一元化について

■報告事項

- 1.次期副館長候補者について
- 2.イメージキャラクターの名称について
- 3.附属図書館での盗難について
- 4.平成21年度第2回学術情報戦略会議について
- 5.平成21年度第2回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会について
- 6.総長裁量経費による学生用図書の整備について
- 7.平成21年度企画展について

人 事 異 動

平成 21 年 9 月 30 日現在

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備 考
21. 7. 31		齋藤 房江	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一係)	辞 職
8. 1	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一係)	矢内 礼	事務補佐員(総務課会計係)	配置換
〃	事務補佐員(総務課会計係)	安藤 良子		採 用

編 集 後 記

本館地下書庫でパソコンに入力している図書館職員を見かけたことはありませんか。古い図書が確かに所蔵されているかという棚卸の作業をしています。本務の傍ら時間を見つけて少しずつ作業しています。大正時代の東北帝国大学の草創期に受入れられた図書に出会うことがあります、当時の職員がどのように仕事をしていたか想いをはせることもあります。附属図書館の設置は、明治 44(1911)年 6 月です。

私が担当している部分の受入年を調べてみました。たった 6,000 冊位（洋書のみ）である特定の分野なのですが、1930 年代に多く受け入れ、1940 年代前半は少ないという結果ができました。やはり、時代を反映しているのでしょうか。

図書館本館自由閲覧室北側を流れているのは「千貫沢」です。扇坂の脇を通り、広瀬川へと流れます。「千貫沢」の源流はどこにあるの

か、興味はありますが調べてはいません。

図書館本館前の通りと「千貫沢」の交差しているところに、昔は「千貫橋」があり、扇坂下のところには「筋違橋」という橋があったようです。図書館の会議室にある仙台城の絵図の複製にはそのように表示されています。

「千貫沢」を調べようと初めて「三太郎の小径」を秋の木漏れ日の中歩きました。

「三太郎の小径」は阿部次郎先生（本館の個人文庫として阿部文庫があります。）に関連した散歩道です。散歩道の先には、斎藤茂吉氏の歌碑や木俣修氏の歌碑があり、途中、偶然にもリスと遭遇しました。短い散歩道ですが気持ちのいい道でした。

今年度から、図書館に収蔵する図書を一般書店に行き学生の皆さんが選定することを始めました。制限が少しありますが、学生の皆さん是非参加して下さい。

東北大学附属図書館報「木這子」第 34 巻第 2 号（通号 127 号）発行日 平成 21 年 9 月 30 日

発行人 片山 俊治 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

電話 022-795-5911 FAX 022-795-5909

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>